市民意見募集（パブリックコメント）結果

「和歌山市景観計画-和歌の浦景観重点地区-（案）」に関するご意見を募集した結果、９件のご意見をいただきましたので、次のとおり公表します。

■募集案件の概要

募集案件	和歌山市景観計画-和歌の浦景観重点地区-（案）
受付期間	平成２４年１２月１１日～平成２５年１月９日
ご意見の件数	４名・９件

■ご意見の概要と市の考え方

No	ご意見の概要	市の考え方
1	和歌の浦の景観を上手に治すのか、それともより悪くするのか、本当にこの計画に盛り込まれているのでしょうか？万葉の里和歌の浦、江戸期紀三井寺詣の和歌の浦、昭和の花街で繁栄した和歌の浦、廃墟と化した現在の和歌の浦の、どの時代を基本の景観を目指していくのかが分かりません。	和歌の浦の景観は、万葉の時代以来の様々な歴史が積み重なり、現在の景観が形成されたものです。そのため、景観に対する思いや関心が高い地域であり、景観の保全に係る活動が活発に行われている地域でもあります。 今回の景観重点地区の指定は、ご意見にありますような「どの時代の景観を目指す」というものではなく、現存する地域全体の景観の特性として重要な眺望の保全を主眼に、目標と方針を定めたものであります。 和歌の浦で積み重ねてきた歴史を基礎として、後世に渡ってどのような景観を目標とし、創造していくのか、については、多様な意見があり、また、そこにお住まいの方々の意思が何より重要です。景観まちづくりワークショップでも様々な意見が出されましたが、個々の地区の景観形成の方向性まで総意を得るには至っていません。 今回の指定をきっかけに引き続き景観形成の取り組みを進め、合意形成のもとで方向性を見いだすことが重要と考えています。
2	和歌の浦・田野浦・雑賀崎の小さな集落には、３つの漁港があり、それぞれが独自に発展してきましたが、今後は既存の権利に拘わらず共存しようとしていかない限り、いくら計画を作っても、発展もなく衰退し、また地域の景観も損ない今まで以上に廃墟化していくことが考えられる。何故、この地域を総合化した計画が出来ないのでしょうか？	景観重点地区指定は、当初和歌浦地区のみを対象に行う予定でしたが、和歌の浦の景観を考えた際、雑賀崎、田野も和歌浦湾に面し、和歌の浦の景観を一体的に形成していることから、和歌の浦景観重点地区は、雑賀崎・田野・和歌浦地区の３地区を含んだもの（一部地域は除く。）としました。 各地域においては、まちなみ・集落景観が異なりますので、それぞれについて景観特性をまとめ、地区の特徴に応じた景観形成の方向性を示しています。 ご指摘のとおり、各地区の団体（自治会、漁港等）が同じ方向性を目指していくことは非常に重要な取り組みです。そのため、市としては「景観まちづくり」活動の一環として、地域の団体活動をできる限り支援していきたいと考えています。
3	路面電車や片男波公園、西浜海水浴場の廃止、海岸遊歩道（記念碑等を含む）など行政が行った施策において潰されてきた景観について、歴史を見直し、どの	ご指摘のとおり、行政の整備により自然景観等が変わってしまったところもありますが、時代によって求められるニーズは異なっており、地域の活性化や市民生活の利便性の向上のために必要であった側面もあります。 しかし、「景観重点地区」に指定されることにより、

	時点での景観を良しとするのか十分に検討し、官民合意のできる本当の姿を問いかけてほしいです。	今後整備する際には、地域の活性化や市民生活の利便性の向上だけでなく、地域の景観の特性も十分に活かした整備を行っていくことが期待できます。 今回の地区指定を契機として、官民が協働でどのような景観を守り、また、創っていくのか、について継続して話し合いを進めていくことが必要と考えます。
4	国立公園内にある旅館（防波堤上にある建物)、不法占拠した建物、建築基準法違反建物、防波堤内の駐車場・建家、利用目的以外の建物等、行政が放置したために潰された景観について、どの時代の景観を良しとするのか十分に検討し、官民合意のできる本当の姿を問いかけてほしいです。	今回の景観重点地区の指定は、ご意見にありますような「どの時代の景観を目指す」というものではなく、現存する地域全体の景観の特性として重要な眺望の保全を主眼に、目標と方針を定めたものです。 不法占拠や違反物件等については、景観まちづくりワークショップでも多数意見が出されましたが、一方で個人の所有物である以上、通常撤去等を行うことは非常に難しい状況であり、慎重な検討が求められます。これらも地域住民の方々の問題意識の向上により、周辺地域の機運が高まっていくことができれば、行政もできる限りの支援を行っていくことにより、解決できない問題ではないと考えます。
5	景観形成基準でもワークシップでも、眺望がメインで、解体によるまちの変化はさほど問題視されていないようだ。全国各地では、景観の重要性が認識されている地域でも、高齢化や建物の老朽化等、持ち主の事情により、古民家、町屋が解体され、問題化している。和歌浦でも特に市町川北エリアは昔の面影が急速に薄れているが、眺望以上に喫緊の課題ではないかと思われる。	和歌の浦の景観の最大の特徴は、万葉の時代から受け継がれてきた、湾・海岸や島しょが作る良好な自然景観や、地域に息づく歴史・文化の景観です。地区指定のエリアが、雑賀崎・田野・和歌浦地区にまたがり広範囲であることから、今回は和歌浦湾の眺望景観を主眼としました。 一方で、景観まちづくりワークショップでの議論においても市町川北エリアを含む各地区内のまちなみ景観・集落景観についての重要性が指摘されました。しかし、その一方でそこでお住まいの方々の意向が重要との意見もあり、今回の地区指定を契機に、それぞれの地区の住民が主体となって、特徴に応じた景観形成の方向性を話し合って頂くことが望ましく、市としては、そうした動きに対して積極的な支援を行っていきます。
6	重点地区には、隣接する養翠園周辺は除外されている。養翠園周辺は、海側、バス停側双方からの進入路とも、史跡、観光スポットとしては、ちょっとどうかと思われるような景観だが、眺望に関係なければ、和歌の浦地域に隣接していても景観保全の対象とはなり得ないのだろうか。	今回の地区指定については、あくまでも、万葉の時代から現在までに至るまでにおいて認識されてきた和歌の浦を取り巻く湾の「眺望景観」が得られる地域を景観重点地区の指定エリアとしましたので、養翠園周辺は含まれていません。 養翠園周辺については「名勝養翠園」を始め景観上価値の高い地域であるため、風致地区の規制を行っているところです。
7	各種取り組みの連携として、観光を視野に入れて連携を図る、とある。しかし、当該地域は、和歌山駅、市駅からも遠く、もし観光や活性化を視野に入れるのなら、公共交通関係者とも連携を図るべきだと思う。また観光と言っても、和歌山城等からの連続性がなく、歴史的景観の飛び地のような状態では、人の流れは出来にくいと思われる。	ご指摘のとおり、当該地域は和歌山駅、和歌山市駅からも遠く、観光や活性化を図るには不利な状況にありますが、地域の魅力を高めれば、それらを埋めることは可能と考えます。また、他都市においても、観光振興や地域の活性化が図られているところが必ずしも利便性が高いとは限りませんが、本市においては、ご指摘のような公共交通機関との連携は不可欠であると考えます。 景観まちづくりワークショップでも、地域の活性化に結びつける活動が重要との意見があり、その主体となる関係者と連携した取り組みが重要と考えています。

8	景観重点地区指定の目的は素晴らしいことと思います。ただ、具体的な案の策定と施行については、もう少し時間をかけて地元住民への周知と合意形成に努める必要があるため、慎重に行っていただきたいです。地元自治会の私自身も本構想をつい最近知ったばかりです。施行の時期等については、今後、一般の公共工事も見込まれることから、２０１５年の和歌山国体に合わせるのが合理的と考えます。	昨年の１月から地元連合自治会、各種活動団体の皆様と共に、計９回の景観まちづくりワークショップを開催してまいり、参加者においては概ね合意形成が図られています。また、昨年の７月に住民説明会を開催し、今年１月にも公聴会を開催しました。 今回の地区指定により、地区内において建築面積１００平方メートル超又は高さ１０メートル超の建築行為等を行う場合、市に届出が必要となり、定められた景観形成基準を遵守することになります。これにより景観保全を含む良好な景観の形成を図っていくことが期待できます。 また、施行日についてですが、良好な眺望景観を保全するためのしくみは早急に整備すべきであり、市としてはできるだけ早い段階で施行したいと考えています。
9	時間があるときに友人と和歌浦をよくドライブします。こんなに景色や夕陽がきれいなところなのに、何故市民・県民がこぞって良くしていかないのかといつも疑問に思います。例えば、「観光客のために、旅館を一歩出て遊ぶ所やお土産物のお店の設置」や「広い道路や大きな駐車場の整備」、「マリーナシティの若者を帰りに和歌浦に引き寄せる施策」、「全てのカフェから海を見渡せるような整備」などいろんなことが考えられます。生まれ変わる和歌浦を見てみたいです。	景観重点地区の指定により、和歌の浦地域のブランドを高めるとともに、一人でも多くの和歌の浦ファンを作ることが目標であります。ブランド力が高まれば、対外的な注目度も増し、まちづくり整備の優先順位も上がりますので、将来的には、地域の活性化を図ることが期待できると考えます。 景観まちづくりワークショップでも、地域の活性化に結びつける活動が重要との意見があり、地区指定を契機として、引き続き地域のブランド力強化、ファンづくり、さらには地域の活性化に向けて取り組んでいくことが重要と考えます。